



8期 jaih-s 報告書

国際保健トレーニング合宿 2013

～集まれ Piece 広がれ Peace～

-描きたいその夢 考えたい世界の
こと 仲間と共に明日の先へ-

国際保健トレーニング合宿

企画趣旨

【テーマ:集まれ Piece 広がれ Peace -描きたいその夢 考えたい世界のこと 仲間と共に明日の先へ-】

合宿参加者は日本全国各地から一同に介し、合宿後はまたそれぞれの地域へ戻る。この4泊5日の合宿を通じ、最初は国際保健医療に対し熱い思いを抱える参加者一人(Piece)が、合宿での提供される様々なコンテンツや他の参加者との交流を経て新たな視座や仲間を得ること、そして参加者自身が国際保健医療分野を担う一人として発信者になること、ひいては「世界のいのちを考える」と同時に平和(Peace)を発信するようになって欲しいとの思いから、このサブタイトルを設定した。

【本合宿を行う目的】

- ▶ **学習機会の提供:**全国各地から良質な情報(講義)・ディスカッションの場を提供し、国際保健医療分野及び介入の多様性を知る
- ▶ **ネットワークの構築:**同分野に興味を持つ学生との積極的・継続的なコミュニケーションの場を提供する
- ▶ **キャリア構築の提案:**幅広い選択肢を知り、自らのバックグラウンドを見つめ直し、国際保健医療との関わり方を再考する

【合宿参加者が目指す目標】

1. 合宿参加前:

- ・合宿申し込み時の選考課題にて、参加者自身と国際保健医療の関わりを整理し、自らの国際保健医療に対する興味・関心を確認すると同時に、合宿参加の動機付けを図る。
- ・合宿指定教科書「国際保健医療学 第二版(杏林書院)」や各講義に関連する事前学習課題を通じ、様々な国際保健医療学を構成するピックについて最低限の知識を獲得するとともに、合宿に対する学習意欲を増進させる。

→【目標1:見つめる】

2. 合宿参加中

- ・合宿にて提供される講義やワークショップを通して自らの意見や経験、バックグラウンドを見つめ直し、再考する。
- ・国際保健医療分野が持つ多種多様な分野や介入方法を知り、自らの将来を考える上で新たな視点を得る。

→【目標2:広める】

- ・与えられた問題の解決方法を導く過程や多様なバックグラウンドを持つ参加者との議論を通じ、国際保健医療の現場で必要となる論理的・主体的な思考力や協調性、さらなるコミュニケーション能力を身につける。

→【目標3:深める】

3. 合宿参加後

- ・合宿で得た情報・知識・交流関係から、合宿後そして将来における国際保健医療との自分なりの関わり方を生み出す。
- ・合宿後も参加者間のネットワークを活用すると共に、自らも国際保健医療分野での活動を重ね、また発信者となる。

る。

→【目標 4:描く】

概要

【日時】 2013年3月17日(日)～21日(木)(4泊5日)

18日(月)は「春の国際保健医療集中講義 2013」と題し合宿参加者 24名の他に
120名程度参加者を公募した。

【場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター <http://nyc.niye.go.jp/>

【対象】 国際保健医療に強い興味・関心を抱いている学生。(専攻問わず・高校生以下除く)

※集中講義は社会人参加可とする。

【参加人数】 23人(18日集中講義は外部参加者含め103名)

【参加費用】 25000円 集中講義のみの参加:3000円(昼食含む)

【プログラム】

Time	内容
DAY1(3/17)	～オリエンテーション/アイスブレイク/レクリエーション～
13:00～13:30	受付
13:30～15:00	オリエンテーション 及び 自己紹介「マンダラート」
15:00～15:45	プレテスト
15:45～16:00	休憩
16:00～17:10	レクリエーション 1
17:10～17:30	休憩
17:30～19:30	総論:湯浅 資之 先生 国際保健医療学
19:30～20:00	移動
20:00～22:00	Welcome Party
22:00～	入浴

DAY2(3/18)	～春の国際保健集中講義@国立オリンピックセンター～
08:50～09:20	参加者受付
09:20～09:35	オリエンテーション
09:35～11:05	各論講義 1:押谷 仁 先生 「感染症は国境を越える」
11:05～11:20	休憩
11:20～12:50	各論講義 2:櫻田 紳策 先生 「ワクチンの普及から見る小児国際保健医療」
12:50～14:00	移動時間+昼食(ふじ)
14:00～15:00	振り返りWS

15:00~16:30	各論講義 3:菅原 秀幸 先生 「BOP これからの援助の在り方と民間セクターの重要性」
16:30~17:15	振り返りWS「BOP ビジネスを考案しよう」
17:15~17:30	休憩
17:30~19:00	各論講義 4:榎島 敏治 先生 「災害援助×メンタルケア」
19:00~19:00	クロージング(アンケート記入など)
19:30~19:50	休憩・移動
19:50~21:00	夕食
21:00~22:00	移動・入浴

DAY3(3/19)	各種講義・ワークショップ
09:00~11:45	各論講義 5+ワークショップ:山口 誠史 先生 「NGO を運営しよう！」
11:45~13:30	昼食
13:30~16:15	各論講義 6+ワークショップ:板東 あけみ 先生 「母子保健手帳から見る世界の母子保健」
16:15~16:30	休憩
16:30~18:30	マッチング報告会@トレーニング合宿
18:30~19:45	夕食
19:45~21:00	レクリエーション 2
21:00~22:30	移動・入浴
22:30~	ミニ懇親会

DAY4(3/20)	～SWOT 分析を用いた国際保健介入の戦略立案～
09:00~09:40	講師:仲佐 保 先生(終日) 計画立案講義
09:40~09:50	休憩
09:50~10:30	SWOT 分析 講義
10:30~11:00	HIV/AIDS 講義
11:00~11:10	休憩
11:10~12:20	SWOT 分析 1 ～S/W/O/T のリストアップ～
12:20~13:20	昼食
13:20~13:50	SWOT 分析 1 発表(6分×4)
13:50~15:10	SWOT 分析 2 ～S/W/O/T のクロス分析～休憩
15:10~15:20	休憩
15:20~15:50	SWOT 分析 2 発表(6分×4 班)

16:40～17:10	SWOT 分析 3 発表(6×4 班)
17:10～18:10	班ごと夕食→食べ終わり次第次の作業へ
18:10～19:30	SWOT 分析 4 ～戦略の決定・プロジェクトデザインマトリクス(PCM)の一部を作成
19:30～19:40	休憩
19:40～20:40	SWOT 分析 4 発表(10 分×4)
21:40～21:40	まとめ・講評・表彰・PDM 作成のその後についての簡単な説明
21:40～23:00	移動・入浴

DAY5(3/21)	～キャリア形成を考える～ シンポジウム/キャリアラウンドテーブル/最後の振り返り
09:00～11:00	シンポジウム(120 分) 講師:梶 藍子 先生、加藤 琢真 先生、崎坂 香屋子 先生、錦織 信幸先生
11:00～11:15	休憩
11:15～13:15	キャリアラウンドテーブル(120 分) 講師:梶 藍子 先生、加藤 琢真 先生、崎坂 香屋子 先生、錦織 信幸先生
13:15～14:00	昼食(45 分)
14:00～14:40	ポストテスト・アンケート記入
14:40～15:30	最後の振り返りワークショップ
15:30～16:00	クロージング
17:30～	Farewell Party

企画内容

[1]各種講義(春の国際保健集中講義)

合宿前半には、5つの講義を用意した。以下を目的としている。

- 1) 国際保健医療に関する知識を深める
- 2) 国際保健医療を志す同志と熱く議論する

初日に国際保健医療総論の講義を用意し、2 日目に各論の講義を用意した。2 日目の各論講義は、「春の国際保健集中講義 2013」として、一般参加者を募った。全国の学生(医療系・非医療系)・医療従事者にご参加頂いた。各論講義のテーマは、「感染症」「小児国際保健医療」「BOP ビジネス」「災害援助×メンタルヘルス」であり、いずれも、世界の保健医療を考えるに当たり古典的なテーマから今後のキーポイントにもなりうるテーマを集めた。それぞれのテーマについて造詣の深い先生をお招きし、お話し頂いた。

1:「国際保健医療学総論」

■講演者:湯浅資之先生(順天堂大学公衆衛生学教室准教授)

ヒト・モノ・カネと情報の国際的な流動化の中で、世界はよりボーダーレスに、世界はグローバル化が進み、常に変化し、国境が明確な地域・民族の境になって来た時代は終わりつつある。その中でも人の生死に直接関わる保健医療が占める問題は大きく、特定の国や地域では依然として基礎的な医療サービスを受けることができずになくなって

しまう人がいる。この格差の背景には紛争、貧困、環境、教育、政治など複雑な問題が存在する。これら断片的な国際保健医療に関する問題、保健医療政策を俯瞰的に理解するため、この講義では開発の歴史に焦点を当て、その中で国際保健がどのような変遷をしてきたのかを講義して頂いた。慣れない開発の概念や歴史に苦手意識を持つ参加者もいたが、先生には何度もわかりやすく噛み砕いて説明して頂き、講義の終了後には質問や意見を交わす参加者の姿も見られた。

■参加者の声

・参加する前の事前課題で「私たちの与える影響」について書いていたが、「こういう影響があるのではないか…」という想像で終わっており、具体的にどのような影響があるのかまでは深めることが出来ていなかった。講義の中で先生から、国際保健がその時、あるいはその前の世界の動きに影響されているということ、関連づけて、何度も繰り返し講義していただいたので、頭に入りやすかった。

今まであまり深く考えていなかった国際保健の歴史は、国際保健の現状と密接に結びついているため、理解することがとても重要だということを学んだ。また、現在の日本や世界の動きがこれからの国際保健に影響を与えるため、過去の歴史について学ぶと同時に現在の動きも注意深く見守り、考えていくことが大切だと考えた。

・国際保健や医療についてまだまだ初学で、ほとんどへ知識のない自分にとってはとてもハードだったが、今日までの国際保健医療の経緯や現状を包括的に把握できる、大変充実した内容だった。

2:「感染症は国境を超える」

■講演者: 押谷仁先生(東北大学大学院医学研究科微生物学分野 教授)

有史以来、感染症と人間との縁は切れたことがない。どのような病原微生物による感染症が多いかは、時代や地域によって一様ではなく、常に変遷があった。その原因は、人の移動、新型感染症の発生などである。過去・現在の事例を学びながら、参加者らが国際保健医療の現場に立つ未来の感染症について考えることを、この講義の目的とした。先生からお話頂いた内容は、①SARS発生時WHO西太平洋地域事務局感染症アドバイザーとして対応された経験、②現在フィリピンで進めている小児肺炎プロジェクト、③国際保健・国際機関で求められる専門知識・技術・経験、語学能力である。

■参加者の声

・航空機などで感染症が簡単に国境を越える現在、世界的な視点で対策していかなければいけないということが勉強になりました。また、自分の将来のキャリアパスをしっかりと長期的に考えなくてはいけないと思いました。

・SARSのPandemicの最前線にいた先生のお話を聞ける、とても貴重な機会だった。未知の感染症と接した時、逃げずにいられるのか。助けに行けるのか。自分に問いかけてみた。あまり、自信はない。逃げなかった人が先生であり、命を落としたDr.Carloである。私たちはPandemicから学んだり震災から考えたりするけど、どうにか一つでも多くのことを先回りできるように、想像力を働かせていかなければならないと思った。

・押谷先生の豊富な経験から、私たち学生に対してこれから自分の道を考えていく上で、背中を押していただけた気がします。何より、自分が何を求め、やっていきたいかを再度考えさせられました。

3:「ワクチンを通して考える小児国際保健医療」

■ 講演者: 櫻田紳策先生(国立国際医療研究センター 国際医療協力局)

グローバル化が進み、便利になった世界。現在も感染症は猛威を振るっている。しかし、ワクチンの拡大によって救われる命が増えた。いくら、ワクチンがあっても、必要な人の元にワクチンが届かなくては意味がない。先生には、ワクチン拡大の現状及び、今後のワクチンの摂取普及についてご講義頂いた。ワクチン普及の歴史や、ワクチン接種されるまでの課題点をわかりやすい例えを使ってご教授して頂いたため、参加者にワクチン接種の重要性を理解して頂けたと考える。

■ 参加者の声

・講義の中で馴染みのある物や人が出たことでより講義に興味を引かれまた、例えて話してくださったので、とてもわかりやすかった。

・ワクチン摂取をすることで、生きることができる可能性のある子供たちが、命を落としているという現状があるということとは以前から知っており、悲しいと思っていた。しかし今回、ある地域で、人の命を救うワクチンを軍事利用したことにより、ワクチンの摂取が困難になったということを知り、とても腹立たしかった。多くの機関がワクチン摂取の大切さを理解し、協力して行っていくことの必要性を改めて感じた。

・ワクチンの歴史や、有用性、どのような機構で作用するのか等が知れ、興味深かったです。他にもワクチンを発展途上国の人へ送達する際の課題が具体的に示されていて、勉強になりました。

4:「BOP ビジネスで国際保健医療に挑む！」

■ 講演者: 菅原 秀幸先生(北海学園大学 大学院経営学研究科・経営学部 教授)

本講義・WS では BOP ビジネスという、世界に約 40~50 億人いる所謂貧困層にスポットライトを当て、如何に援助対象者層の生活の質を上げていくのか、そもそもの貧困層と呼ばれる人の生活の質を向上させ、そもそもの貧困層と呼ばれる人の生活の質を向上させていけばよいのかを講義やワークショップを通じ考えていった。

「脳みそに汗をかく」をモットーに掲げる先生の講義は、SNS を用い参加者と意見を交わしながら進めていくというインターラクティブなもので、最初は戸惑っていた参加者も次第に積極的に意見を交わす姿が見られた。ビジネスという手法を用いて国際保健の問題を解決するという新たな視点を得た参加者は、同時に多角的なアプローチの重要性も学んだのではないだろうか。

■ 参加者の声

・Twitter を使って先生と意見交換を行うという経験は今までなく、最初はとても戸惑った。みんなのつぶやきを見ることで、たくさんいる参加者の意見を知ることができ、思いを共有し、物事を多角的な視点でみるのがより容易に出来るようになるのかなと感じた。初めてこの講義名を聞いた時、ビジネスと国際保健のつながりがピンと来ず、むしろ国際保健の中にビジネスが入って来ることに関して良い印象を持っていなかった。しかし、講義を聞く中で、国際保健の中にビジネスの要素を組み込むことにより、より有効で効率的な医療を提供することが出来るなど、ビジネスから学ぶべきものはたくさんあり、国際保健にとって良い影響を与えうる存在であると考えられるようになった。最後のワークで、「どうやったら自分たちに利益になるか」ということを考えてプランを立てるのにすごく苦労し、改めて、私は普段このような視点で国際保健をみていないのだと感じた。

・講師の方がビジネスのバックグラウンドをお持ちとのことで、これまで受けたことのある国際保健の講義とは毛色が

違い、非常に刺激的でした。一日中の講義で疲れていたのですが、目が覚めました。インドの眼科医院の例はとても面白かったです。機会があれば見学にいきたいと思いました。その他、印象に残った言葉は、人はもらった物は粗末にするけど買った物は大事にする、スピードが大事、常にアウトプットを意識せよ、です。普段から意識していきたいと思いました。

5:「災害援助×メンタルヘルス」

■講演者: 榎島 敏治先生(日本赤十字社医療センター国際医療救援部長)

地震・洪水・台風・火山噴火、災害大国である日本。心のケアの大切さが広まってきている。心のケアは急性期から必要とされ、慢性期にわたり長期的に必要とされることである。先生には、災害後のメンタルヘルスやケアチームの働き、現場でできることをご教授頂いた。自分たちが将来災害現場に行った際にも活かせるようにご教授して頂いたため、参加者に心のケアについて考える場の提供につながり、自分たちのできることを理解して、将来に役立つ学びの提供につながったと考えられる。

■参加者の声

・被災地のメンタルヘルスクリニックに行く予定があるので、支持、傾聴、共感を大切に、被災された方に関わろうと思った。心のケアが必要な人の中でも、原発事故により、何重にもストレスを抱えている人がいることがわかった。

また、メンタルヘルスは、言語や文化の異なるところでは直接的な支援が出来ないという限界を知ることにもなった。

・災害援助における、援助者側の心のケアという視点が新鮮で勉強になりました。援助していく側として、どんな心がけが必要になるのか考えるきっかけとなりました。

・大学在学中から精神に興味があったため、この講義は、合宿の中でも特に楽しみにしていた講義の一つであった。事故や災害に遭遇した人、また、そのような出来事によって大切な人を失った人たちを、どのように支え、ケアしていくのかについて、とても興味深かった。

専門家以外の方がこころのケアを行う際にどのように心がけたら良いのか、こころのケアを行う人自身のこころの負担を軽減するためにはどのようにすれば良いのか、などとてもわかりやすかった。

今回講義の中で教えていただいた内容をこころに留め、これから先援助を行っていくことができれば、と思う。



[2]ワークショップ付き講義

合宿中盤では、様々な国際保健医療のトピックを知ることに加え、主体的・論理的思考力と協調性を身につけるため、2種類のワークショップを実施した。3日目に「NGOを運営しよう!」「母子健康手帳から見る世界の母子保健」

では前半で講義を行い後半でワークショップを行うことにより、講義でインプットしたことを、ワークショップでアウトプットし参加者自身が自分の中で講義内容を深めたり、参加者同士のディスカッションにより、新たな考え方を知ることができたのではないと思う。ここでは参加者達成目標の〈広める〉という部分に焦点を当てた。また4日目の「計画立案及びSWOT分析講義・演習」ではSWOT分析と講義を織り交ぜた形で行い、参加者達成目標の〈深める〉という部分の焦点を当て、与えられた問題の解決方法を導く課程を学び、問題解決のための戦略を主体的に考え、班員と協力しあいながら立案していく参加者の様子がとても印象に残っている。

1:「NGOを運営しよう！」

■講演者:山口誠史先生(国際協力NGOセンター事務局長)

NGOという言葉は国際保健医療に携わろうとしている者にとっては身近で、将来何らかの形で関わってくる人が多いであろう。しかし、NGOの運営について理解している者は少ないであろう。そこで、山口先生には、NGOの定義や歴史など、概論の後、各論として人材・広報・財務・評価について講義頂いた。その後、ワークショップを行うことで講義をより、理解することに繋がり、実際NGOの運営についても考えることができ、国際保健医療分野におけるNGOの重要性の理解にも繋がったと考える。

■参加者の声

・講義に臨むにあたり事前に課題を出されたことで、「NGO」という名前は知っていても、どのような団体がどんな活動を行っているかや、活動資金をどのように得ているかなど、NGOについての知識を得ることが出来、授業に入りやすかった。グループワークでは、事前課題に関連したことについて深く学び、意見をかわすなかで、他者の意見や考えを知ることができた。先生がアメリカのNGOについて話されていたが、日本のNGOも自分のキャリアアップをはかる事が出来るのはもちろんのこと、長く務めることが可能になれるよう体制を整えていくことが、NGOの発展や存続につながるのではないかと考えた。

・NGOがNGOである意義、国際機関が国際機関である意義、企業がCSRとして途上国と関係を持つ意義など考えさせられました。今後のNGOが社会でどのような立ち位置になっていくのか、他の人の意見を聞いてみたいと思いました。



2:「母子健康手帳から見る世界の母子保健」

■講演者:板東あけみ先生(ベトナムの子ども達を支援する会 事務局長)

今途上国において、母子の抱える健康問題を解決していく方法として注目を浴びている、日本独自の母子手帳を

取り上げ、世界でどのようにこの母子手帳が活躍しているか、どのような効果が得ることができたのかをご講義いただきました。またワークショップにおいては、自分たちの母子手帳をみて、「なにを感じたか」「理想の母子手帳とは」についてディスカッションを行った。界のことだけでなく日本の母子手帳を振り返りよりよくしていくためにはどうしたら良いのか考えることで、日本も途上国も共通点があり、またこの国においても親が子を思う気持ちは同じであるということに再度気づかされた。

■参加者の声

・母子手帳が母子保健では非常に重要な役割を果たすことは知っていましたが、今まで母子手帳をじっくりと見たことはありませんでした。改めてみることで、いかに母子手帳が親の愛情を記録しているか、大きくなってから子供の精神的支えになりうるかを痛感しました。今後、世界で母子手帳関連のどんなプロジェクトが行われているか確認してみようと思います。

・心で感じるものが多かった。母子健康手帳はこどものもの、という言葉が印象的だった。親の愛は世界共通であることを切り口としていたことから、ブレない視点をもつ重要性がわかった。

日本では、虐待が問題になっているが、それは親も生きづらさを感じているからだということを知り、コミュニティ全体で親子を見ていくことができればと思った。



3:「計画立案及び SWOT 分析講義・演習」

■講演者: 仲佐保先生(国立国際医療研究センター国際医療協力局派遣協力第二課長)

「ザンビアのある地域におけるHIV新規感染者数減少」をテーマとして、計画立案を行うグループワークを行った。参加者は、9 ページに渡る事例を読み、1 日をかけてハードな議論を行った。SWOT 分析は、実際に国立国際保健医療センターなどの期間でも実施されているプロジェクト立案の手法で、この分析を行うことにより問題の本質を可きられた時間内で噛み砕いていくことが可能になる。事例は、ザンビアの保健医療・政治・経済・文化・教育・インフラや、HIV/AIDS の検査・治療について言及したものをを用いた。

■参加者の声

・朝から晩まで同じチームで一つのことについて話し合い、頭の中は色々な情報が飛び交い、終わった頃にはぐったりだった。グループワークを行う中で、メンバーの意見を聞き、意見を交わすことで、多角的な視点を知り、また、理解を深めることができた気がする。最後のグループ発表の時に、それぞれのグループが個性的なプロジェクト名やアイデアを出しているのを見て、改めて人の考え方の多様性を実感した。私はワークの中で、周りの人たちが様々な意見を積極的に出し合う中、情報を把握するだけで精一杯であり、また、意見を求められても論理的に説明できないためつまこまれて終わってしまうことが多々あった。SWOT はプロジェクトの際にも使われると先生が話されていた

が、理解力や論理力、専門的知識などがなければ現場にいてプロジェクトを考えるのは難しいと思った。今回の講義で学んだことや悔しい気持ちをバネにして、頑張っていきたい。

・一日中ということで、コンテンツだけでなく、グループで議論を進めていく過程も勉強になりました。互いの意見を尊重して、うまく役割分担できたのではないかと思います。



[3] マッチング報告会

本合宿の後、参加者が国際保健医療分野のキャリア形成の更なる一歩を踏み出す手助けとして、jaih-s の代表企画のひとつであるフィールドマッチングの紹介を行った。

■ 学生発表者: 大滝真梨香さん 渡辺晶子さん

■ 講評: 渡辺学先生 (JICA 人間開発部)

小山内泰代先生 (国立国際医療研究センター)

■ 司会: 磯野晃照 (8 期後半マッチング班 班長)

大滝さんは 2012 年夏にケニアへショートインターン研修に行ったご経験を、渡辺さんは 2012 年夏にザンビア国にてプロジェクト見学をしに行ったご経験を話されました。将来海外で働くことを目的として、マッチングの実習で具体的な目標を持って参加され、「自分の目で見ることには敵うものはない」という力強いメッセージをくださいました。渡辺先生と小山内先生からは、現場で働く意義と、マッチングを受け入れる側としての想いを話していただきました。マッチングでは日本を客観的に見ることができる。また、「森を見て木も見る」「現場では現地の方の価値観を知る必要がある」という現場で学ぶ上での考え方も教えていただきました。最後にマッチング参加学生と先生方も含めて少人数のグループを作り具体的なキャリアパスについて話し合いました。

■ 参加者の声

・バックグラウンド、キャリアの考え方を知ることができた。

・自分たちの視点から見た国際保健について、自分たちの言葉で語られており、写真も交えての発表で、学生からの発表が親しみやすかった。

・実務経験のある方にお話を聞いていただいたのでよかった。

[4]シンポジウム/キャリアラウンドテーブル

前半のシンポジウムでは「国際保健への多種多様な関わり方・キャリア形成」をテーマに、様々な分野でご活躍中の先生方に、「学生時代」、「卒業後」、そして「現在」と、どのようなご経験、経過を経て今の先生方がいるのかを伺った。先生方の多様なキャリアの中にどのように考え選択されたのかを聞く中で、参加者は自分の将来像、そして様々な関わり方を改めて見つめ直す機会となった。後半のキャリアアラウンドテーブルでは、4つの小グループに分かれ、各グループ先生と話し合う場を設けた。参加者自身のキャリアから国際保健の現場の実際など話題は多岐に渡り、熱心に意見が飛び交う様子が見られた。また同じグループの他の参加者の意見も聞く中で、参加者の将来のビジョンや考えを聞くことができ刺激を与え合うひと時となった。

■講演者：錦織 信幸先生(WHO WPRO 感染症部門結核対策課 医官)

崎坂 香屋子先生(中央大学総合政策学部准教授)

加藤 琢真先生(GLOW 代表理事)

梶 藍子先生(NGO メータオ・クリニック支援の会)

■参加者の声

・今回のこの講義では、様々な職に就かれている方々から、色々な話を聞くことが出来、自分の将来を考える上でも参考になった。

私は今まで『「病院」は、知識・技術を身につける場所であって、きっとどこでも学べるものは一緒だろう』と考えていたが、今回の講義を聞いて、自分が将来どうなりたいかを考えた上で選ぶことの大切さを改めて感じた。

また、「私の進路は回り道なのではないか」と進路に関して思うところがあったが、先生方の話を聞いて、「寄り道をして、それはいつか私の本当にやりたいことにつながってくるはず!」と前向きに考えられるようになった。

一人一人の先生方と話をする時間では、先生方がとても和やかなムードで迎えてくださり、また、どんな質問にもわかりやすく答えてくださったので、質問しやすく、先生方の詳しい話をたくさん聞くことが出来、勉強になった。

・4人の先生たちと質問しやすい環境でお話をすることができました。個人向けのアドバイスのような時間になっているときもありましたが大人数ではそれはできないし、先生がその質問した子への返答をしてくださっているときも「この人の考えや目標としていることってそうだったんだ」と知ることができて良かったです。最終日だからこそ、周りの友人のことをさらに知る機会にもなって良かったです。

・様々な切り口から、国際保健に関してお話を聞けて大変勉強になりました。

自分の疑問点、不安だった点をプロフェッショナルの方に聞いていただける機会は初めてだったのでとてもありがたかったです。

また文系視点からのお話を聞いたのも新鮮でした。キャリアパスをじっくり考えるきっかけを与えていただいたことを感謝します。



運営スタッフ

岡本 光（千里金蘭大学 看護学部 看護学科 3年）

小磯 裕香（千葉県立保健医療大学 健康科学部 看護学科 2年）

坂本 陽（東京医療保健大学 東が丘看護学部 看護学科 1年）

菅原 丈二（中央大学 総合政策学部 政策科学科 3年）

園田 友紀（三重大学 医学部 看護学科 3年）

平賀 裕章（東北大学 医学部 医学科 5年）

【当日スタッフ】

上山 美香（旭川大学保健福祉学部保健看護学科 4年）

浦井 智秋（法政大学経済学部経済学科 4年）

大澤 綾子（宮崎大学医学部医学科 4年）

小淵 香織（徳島大学医学部医学科 4年）

桐山 純奈（慶應義塾大学薬学部薬学科 4年）

木名瀬 素子（新潟大学歯学部歯学科 4年）

堂 より子（京都橘大学看護学部看護学科 3年）

谷口 健太郎（東京歯科大学歯学部歯学科 4年）

樋口 朝霞（北海道大学医学部保健学科看護学専攻 3年）

藤田 雄也（長崎大学医学部医学科 4年）

別所 瞭一（旭川医科大学医学部医学科 4年）

村田 雄基（旭川医科大学医学部医学科 3年）

（※所属は 2013 年 3 月当時）

運営スタッフより

半年間の準備期間を経て、『集まれ Piece 広がれ Peace～描きたいその夢 考えたい世界のこと 仲間と共に明日の先へ～』のテーマの元、jaih-s 国際保健トレーニング合宿 2013 大成功にて終了しました。申し込み数は過去最高、参加者も北は北海道、南は国境を越え台湾から 23 名の参加者が集結し、講義、ワークショップ、またレクリエーションなどを通じてテーマの通り「世界のいのち」と「自分の未来」に考え、悩み、語り、笑いあった合宿となりました。

また3月18日は今回で2回目となる「春の国際保健集中講義」を開催し、103名の参加者の皆様にご来場頂き、大盛況にて終えることが出来ました。

開催に至るまでスタッフ間で数多くのミーティングを重ね、「幅広い国際保健分野の中でも、何を伝えたいのか」「何を提供すれば、参加者の皆様に楽しんでもらえるか」に真摯に向き合ってきました。正直多くの困難もありましたが、手厚い事務局の皆さんのフォローアップ、そして何より参加申し込みされた皆様の熱意に動かされ、走り抜けた半年間だったと思います。至らない箇所、改善が望まれる箇所、多々ありましたが、当日先生方や参加者の皆様から感謝やねぎらいの言葉をかけて頂いたり、次に進む意欲を伺って、微力ながら「せかいのいのちのために」動く人材育成に携わることが出来たのではと思っております。振り返ればたった4泊5日、100時間のトレーニング合宿でしたが、きっと参加者の皆様がそれ以上の価値を今後創造し、発信し、国際保健への道を紡いでいくことを切に期待しております。

アニュアル作成に当たり、jaih-s に期待を寄せて下さり企画に応募・参加して下さいました参加者の皆さま、そしてご多用中にも関わらず登壇を快諾して下さいました素晴らしい講義をして下さった先生方に、この場を借りて運営スタッフ一同改めて御礼申し上げます。本企画にご協力頂き、心を寄せて下さった皆様、誠にありがとうございました。

(文責:8期前半合宿班班長 園田 友紀)